

令和6年度 事務事業評価シート（1）

「令和5年度事務事業」

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	男女共同参画交流の広場運営事業				事業番号	007-039	
担当部署名	市民人権	局	ダイバーシティ推進	部	ダイバーシティ企画		課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
			無	取組の方向性	—		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
			無	現状値	—	目標値	—
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(5)ジェンダー平等を実現しよう	ターゲット	5.1
		寄与するKPI	有	取組	男女共同参画に関する啓発		
			有・無	指標名	—		
			無	現状値	—	目標値	—

2	関連計画	・第5期さかい男女共同参画プラン【計画年度：令和4年度から令和8年度】		
3	事業開始年度	平成 12 年度	点検対象年度	令和 7 年度
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	・男女共同参画社会基本法 ・女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 ・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 ・堺市男女平等社会の形成の推進に関する条例 ・堺市男女共同参画交流の広場規則		

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁		
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	全市民	対象数	単位
			813,153	人
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	堺市男女共同参画交流の広場の運営を通じて、男女共同参画社会の実現に向けて活動する個人やグループの活動支援を行い、相互交流を促進することを目的としている。また、日々の暮らしの中で不安や悩みを抱えている人が、相談することで気持ちや感情を打ち明け、整理し、いきいきと自分らしく生きるための契機となるよう、相談事業を実施する。		
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	堺市男女共同参画交流の広場運営業務 ○男女共同参画に関して活動する市民グループの活動の場やネットワーク形成のための交流の場として、オープンスペース・相談室（相談室は相談日以外）を市民に提供し、また、図書・ビデオ（DVD）の館内閲覧や貸出などによる情報提供を行う。 ○相談業務（カウンセリング業務）については、日々の暮らしの中で不安や悩みを抱える女性を対象とした「女性の悩みの相談」、同様に悩みを抱える男性を対象とした「男性の悩みの相談」を実施する。 ○DV被害者同士が安心して自らの悩みや体験を語り合うことで、被害者自身の気持ちや感情を整理し、DV被害からの回復を図る「DV被害者サポートグループ」事業を実施する。 ○男女共同参画交流の広場に関する情報を掲載した情報紙「ひろばだより」を年2回発行する。		
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など			
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	—		
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	有限会社フェミニストカウンセリング堺		
10	公民連携・協働事業	—		

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標 点検対象年度
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
堺市男女共同参画交流の広場 年間利用者数	人	目標値	1,200	1,800	2,000	2,200
		実績値	1,353	1,746		
		達成率	113%	97%		
当該指標を選定した理由	施設の利用によりグループ活動やネットワーク形成のための交流・活動の場を提供できた人数を確認することができるため。					
目標値の設定根拠・算出方法	令和6年度からSNSによる情報発信を強化することで施設利用者数の増加を見込み、目標値は令和5年度実績値を踏まえた2,000人とした。					

活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標	
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	
相談件数	件	目標値	514	519	567	
		実績値	440	447		
		達成率	86%	86%		
当該指標を選定した理由	相談に対応することで、相談者にとって自分らしく生きるための契機になり、年間利用者数の増加に寄与するため。					
目標値の設定根拠・算出方法	女性の悩みの相談・男性の悩みの相談の最大枠数（年間）。					

令和6年度 事務事業評価シート（２）

事務事業名	男女共同参画交流の広場運営事業	事業番号	007-039
-------	-----------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

事業費	項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和6年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	6,858	6,842	7,074	6,986	7,674
財源内訳	国支出金			94		80
	府支出金			0		0
	市債			0		0
	その他（ ）			0		0
	受益者負担金(使用料、手数料等)			0		0
	一般財源	6,858	6,842	6,980	6,986	7,594
14	人件費（b）	1,640	1,640	2,545	2,950	3,490
15	年間経費（c）=（a）+（b）	8,498	8,482	9,619	9,936	11,164

事業費の内訳

（単位：千円）

事業費内訳	項目	年度		事業費	うち一般財源	項目	年度		事業費	うち一般財源
		R5	R6				R5	R6		
16	消耗品費	決算	9	9			決算			
		予算	10	10			予算			
	謝礼金	決算	20	20			決算			
		予算	0	0			予算			
	通信運搬費	決算	41	41			決算			
		予算	52	52			予算			
	男女共同参画交流の広場運営業務委託料等	決算	6,747	6,747			決算			
		予算	7,532	7,532			予算			
	その他備品購入費	決算	169	169			決算			
		予算	80	0			予算			

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和4年度	令和5年度
		1,353	1,746
17	① 年間利用者数	人	
	② 上記①にかかる年間経費	千円	8,482
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	6,269
	備考（算出についての説明等）	男女共同参画交流の広場運営に係る経費（人件費含む）	

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	令和5年度は、1,746人の様々なグループや個人が当施設を利用した。年度途中で新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へ移行し利用制限が緩和されたことで、令和4年度と比較すると年間利用者数が増加した。年間経費は次年度以降の事業者選定により人件費等が増加した一方、年間利用者数の大幅増により、結果として単位当たり経費は減少した。 また、相談業務については、令和3年度より相談件数を増やしており、女性・男性とも高い利用率となっている。令和6年度よりさらに相談件数を増やしており、今後も、SNS等様々な手法を用いて情報発信を行い、施設の認知度向上と利用者数の増加に努める。
----	--

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	以下の取組により、「ゴール(5)ジェンダー平等を実現しよう」に寄与していると考え。 ○男女共同参画に関する活動を行う市民グループに活動やネットワークの形成のための交流の場を提供し、市民の男女共同参画に対する意識醸成に寄与することができた。 ○相談事業では、相談者から寄せられる様々な悩みに対して、ジェンダーの視点を持ってカウンセリングを行った。 ○DV被害者サポートグループ事業では、DV被害者の自立や心身の回復を図るために、被害者同士が自らの悩みや体験を語り合う交流会を実施するなど、相談者自身による問題の解決と心身の回復の支援につながることができた。
----	--

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和5年度とした事業のみ記載）

必要性	☒ 高い ☐ 低い	令和5年度の施設利用者数は1,746人で、令和3年度の施設利用者数1,163人と比べて大幅に増加しており、市民の男女共同参画に関する意識醸成や相談者が抱える問題への解決や回復の支援につながっていることから、必要性及び有効性について高いと考える。
有効性	☒ 高い ☐ 低い	